りょうかわ

学校だより　令和2年1月24日号　新潟市立両川小学校

今の君も，これまでの君の人生も，全部OK！大丈夫！

校長　　中村　雅芳

「どの子どもにも自分に対する誇りをもち，力強く未来へ進んでいってほしいと心から願っています。４月から歩んできた９か月間を一人一人が振り返り，自分で自分を褒める年末としてください」と綴ったのは「学校だより No.19（12/16 発行）」でした。あれから約１か月の間に，私にとって嬉しいことが３つありましたので紹介します。

1　自己肯定感と他者からの受容感が大幅アップ！

全市一斉に毎年行っている「新潟市生活学習意識調査（１１月実施）」の結果が，年明けに届きました。以下が，昨年度と今年度の比較です。

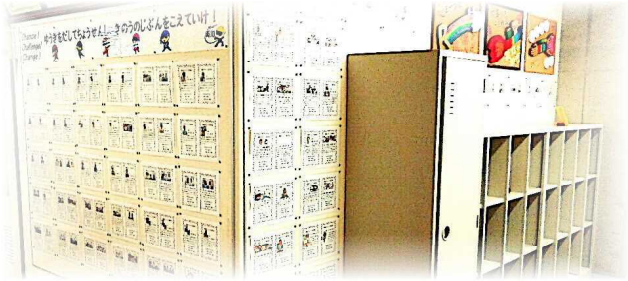
質　問　項　目	2018	2019	増減
自分にはよいところがあります。	59.5	71.6	＋12.1
やっていることを先生や友達に認められて，嬉しいと感じることがよくあります。	57.1	70.7	＋13.6
地域や学校で先生以外の大人からほめられたり認められたりして，嬉しいと感じることがよくあります。	57.0	62.1	＋5.1
学校生活は楽しい。	68.6	69.0	＋0.4
友達のよいところを見つけたり，友達が落ちこんでいるとき，励ましたりしています。	59.2	59.5	＋0.3

アンケートは４件法で，数値は「とてもそう思う」と答えた人の割合（%）です。両川小学校の数値は，昨年度も，今年度も，新潟市の平均を超えています。

今年度は昨年度と比較して，大幅に増加していることがわかります。特に，自己肯定感に関わる「自分にはよいところがある」，他者からの受容感に関わる「認められて嬉しいと感じることがよくある」で，１０ポイントを超える躍進です。日々子どもたちとふれ合う中で実感していたことが，数字の上でも確認できて大変嬉しく感じました。

2　感動チャレンジ認定証の発行枚数が200枚超え！

４月１１日（木）から発行し続けてきた「感動チャレンジ認定証」が，１月２２日（水）で，ついに２００枚を超えました。ちなみに，記念すべき２００枚目は，１年生の山田珠奈さん，藤田佳純さんのコンビでした。２人が披露してくれたのは，縄跳びの連続前回り，連続後ろ回り，けん玉の連続技という“かっこいい姿”でした。



校長室前の掲示板から始めた「感動チャレンジ認定証」の掲示スペースがどんどんなくなってしまい，現在は玄関をぐるりと覆うように増え続けています。正直，これからどこに貼っていこうかと悩んでいます。でも，嬉しい悩みです。(*^_^*)

まだ認定証を手にしていない人，若干います。３月末までに全員に渡したい！どうか遠慮なく，努力してできるようになったことを校長室まで披露しに来て下さい。チャンス，チャレンジ，チェンジ！自分を変える絶好の機会です！

３ 「プロフェッショナル仕事の流儀」で出会った素敵な言葉！

ＮＨＫテレビ「プロフェッショナル仕事の流儀（1/7Tue.22:30-23:20）」で取り上げられた数学教師 井本陽久教諭の行動，言葉に深く感動しました。

井本教諭は，全国トップレベルの超進学校に在籍しながら“教えない”教育で注目を集める型破りのカリスマ高校教師です。その授業をひと目見ようと，全国から教育関係者が続々と見学に訪れます。「できる・できない，正解・不正解に意味はない。大切なのは，自分の頭で考えること」と断言する井本教諭は，教科書を全く使わず，ノートも一切取らせません。使うのは，子どもの解答（特に誤答）を元に作られたオリジナルプリントのみです。１時間でたった１問，答えすら出ないまま授業が終わることもしばしばですが，子どもたちは夢中になって立ち上がり，傍にいる井本教諭の存在すら忘れて没頭します。

「ほら，子どもたちだけで盛り上がってますよね。私がここで何を言っていても聞いてない。無視ですよ。何なら私がここでそうっと帰っても，誰も気付かないでしょう（笑）。これが一番嬉しい。私の想定をどんどん突き抜けていく子どもたち。限界突破していく子どもたち。今日もまた，子どもに教えられました。‥教師の役割って何なんでしょうね？本当にわからないですよね。少なくとも“教える側”と“教えられる側”に二分されるものではないと思います。“一緒に学ぶ者同志”というのがしっくりきますね。優劣を超えたところに，教育の価値，教師の役割ってあるんではないでしょうか。」

「（井本先生にとってプロフェッショナルとは何ですか？）今の君も，これまでの君の人生も，全部ＯＫ！大丈夫！‥うーん“愛”ですね。」

高校生と小学生では発達段階が違うので，井本教諭の実践をそのまま当てはめたり，真似したりはできません。しかしながら，井本教諭の根底に流れる教育観「ありのままのあなたでいい」という条件なしの肯定には，大変共感しました。

これからも両川小学校職員一同で，子どもたちの更なる成長を促していきます。